

ニコッと通信

nicotto tsu-sin!



ニコとちゃん

2005.10.15

第11号

発行／
ぐんまこどもの国児童会館

ジュニアボランティア
おばけに大変身

夏の特別企画 こどもの国のおばけ屋敷より



ぐんまこどもの夢大賞 第14回

第14回ぐんまこどもの夢大賞入選作品展

期 間:11月20日(日)~12月5日(日)

会 場:多目的ホール

ぐんまこどもの夢大賞は、絵画と童話の作品を毎年夏休み期間中に募集していますが、今年で14回目を迎えました。これまで作品をかいてくださったみなさん、ありがとうございます。

そして今年もたくさんの夢あふれる作品を御応募いただきました。入選作品展では、最優秀賞、金賞、銀賞、銅賞、奨励賞に輝いた作品を展示します。子どもたちの自由で夢のある作品を、ご家族で御覧ください。

なお初日(11月20日)は、表彰式を行うため、午後1時からの開場となります。

スペースシアター

●プラネタリウム冬番組

11月12日(土)~

平成18年2月19日(日)

平日 14:30~

土・日・祝日 13:00~、15:30~

※おかしなキャラクター「ゴラゴン」が、星の光る仕組みを楽しく紹介します。



プラネタリウム クリスマス企画 爆笑!!スターナイト・ライブ

開催日 12月4日(日)

時 間 昼の部15:00~16:00 夜の部18:00~19:00

会 場 スペースシアター 定 員 182名(先着順)

観覧料 無料

●11月1日(火)から事前申込

ぐんまこどもの国児童会館までお電話ください。

こんなプラネタリウム見たことない!「星のお兄さん」で全国的に有名な解説員・田端氏による、これまでの常識を打ち破る爆笑トーク&星空解説です。大人の方もぜひご覧下さい。内容は主に小学生以上を対象。

★★★★「星のお兄さん」田端英樹氏★★★★



ラフォーレ琵琶湖のホテルマン。毎週、爆笑ライブ・ショーを行っている。

歌手の山崎まさよし氏をはじめ多くの有名人も絶賛!TBSテレビ土曜朝の番組「知っとこ!」でも取りあげられ、今注目の人。

星空コンサート 「スターナイト・クリスマス」

開催日 12月23日(金)

時 間 18:30~20:00

会 場 スペースシアター

定 員 180名(先着順)

観覧料 無料

●11月19日(土)から事前申込

ぐんまこどもの国児童会館までお電話ください。

岩崎孝昭氏のすてきなオルガン演奏をお楽しみください。



休館日

10月... 3日(月)・11日(火)・17日(月)・24日(月)・31日(月)

11月... 7日(月)・14日(月)・21日(月)・28日(月)

12月... 5日(月)・12日(月)・19日(月)・26日(月)

年末年始...平成17年12月29日(木)~平成18年1月3日(火)

お問い合わせお申し込みは



ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町480

TEL.0276(25)0055 FAX.0276(25)0059

URL <http://www.sunfield.ne.jp/~kodomo01/>

子育てセミナー もっと笑顔で子育てを

講師：関東短期大学助教授

森静子先生

子育てセミナーは、子育て中の親、祖父母等子育てに関わる人を対象に年間5回、行われます。今回はその2回目の9月9日に、関東短期大学の助教授、森静子先生をお招きして行われた「もっと笑顔で子育てを」をご紹介します。（以下セミナーからの抜粋）



○赤ちゃんは「危険」が分からない。ということ を親は分からない

親は、赤ちゃんが熱いものにさわってやけどをしそうになったとき「熱いからさわっちゃ駄目!!」と叱ります。

親は大人になるまでにいろいろな体験を積んでいるので「熱い」を分かりますが、赤ちゃんは「熱い」ということ自体が分かりませんから、なんで叱られたか理解できません。このとき親は「赤ちゃんは分からないのだ」ということを分からないので、両者間でトラブルが生じます。

○子どもにたくさん体験させるには

3歳位までの子どもは、体験を積んで様々なこと知り、発達していきます。このため本当の危険から子どもを守ってあげようとする、親の安全配慮が必要不可欠です。

たとえば、親は、子どもが痛いことを「痛い」と分かった瞬間に、さっと助けられる距離にいななければいけません。「痛かったね」と言い「痛い痛い飛んでいけ」で、子どもは「痛い」ことを学ぶと同時に親も「痛い」のを分かってくれ、それをどうにかしてくれたと感じ、癒されます。

また、子どものことを考えて環境を整えることも大切です。

トイレトレーニングなどで、子どもが何故トイレを怖がるのか、おまるをいやがるのか、子どもの目線で考えてみましょう。子どもにとってトイレはガケで、落るという怖さがあります。そこで、トイレトーパーなどで穴を隠すと、子どもも安心して用を足すことが出来ます。出来たらきっちりほめてやってください。その歳に初めて出来たことは、その歳でなくてはほめてあげられないのです。

「ひとりでパンツはけるかな？」

①最初は、ママが前後、裏表を確認して渡します。

おヒザに座って、まず両足を入れ...



②前の部分を両手で持たせて



③立ち上がらせると、自然にパンツが上がりします。

後ろでちょっと手伝っても、本人には見えません。



④出来たら、ちゃんとほめましょう。

次は前後の確認なども自分でさせるなど、徐々にひとりで出来るようにしましょう。



○体験が将来に繋がる

子ども達が集団で遊んでいると、しばしばおもちゃなどのとりっこが始まり、子どもが相手の子どもを噛んでしまうことがおこりがちですが、ケンカ=体験をさせて、どうして噛んじやいけないのか、ケンカのルールを教えるチャンスです。

また親(大人)は、タイミングを見て介入します。とりっこをしている2人を、一緒にやろうね?と左右において遊んでいるうち、面白いと互いに顔を見合わせてニコツと笑います。目と目を合わせて笑うことは2人でなければ出来ません。「ひとり」より「みんな」の方が楽しい...これも人間が元々持っている、ひとりでは生きていけないというコミュニケーションの体験です。将来「ひとりが快適。結婚なんかなくてもいい」とならないために。

○子どもの叱り方に段階をつけよう

親はその時の気分で、子どもを叱ってしまいがちです。そこをぐっとこらえて、叱り方に段階を付けましょう。後ろで何やら、振り向いたらつい叱りたくなってしまうことをやっても、まず、背中ではかれる。次に、斜めでしかれる。前でしかれて、近くに行ったらしかれて、抱きしめながらしかれる。

一番真っ正面から叱るのは命に関わる事をしたときだけです。普段あまり怒らないお母さんが、ここまで叱る。そういう事態は大変な事なんだと子どもは理解できます。

○教えることは楽しむこと

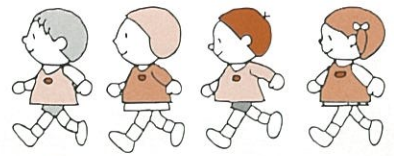
あやすことは、人間しかやらない大切な行為です。

いないいないばあを、うちの子は全然やらないというお母さん! やったのは一回だけでは? 子どもに一回では楽しさまで伝わりません。繰り返しが大切です。教えることには楽しさがないと伝わりません。ポイントは笑顔です。口元がきゅうっとあがったお母さんの笑顔は教えるときのすてきなエッセンスです。

○笑顔は子どもに伝播する

保育園などにくる子どもの顔を見ると、親の顔が分かります。子どもは必ず親と同じ顔をしています。泣いている子どものお母さんは泣いている顔、怒った顔の子どものお母さんは必ずおこってるし、心配性な顔の子どものお母さんは心配な顔、笑っている子どものお母さんは笑ってる顔。笑顔は必ず伝播します。お母さんが笑顔でいれば子どももいつも笑顔です。もっと笑顔で楽しく子育てしていきましょう。◇…ピグマリオン効果

「叱る」こと「ほめる」こと(1)



一心にひびく叱り方・ほめ方

大人(親・教師など)が、子どもを叱る・ほめる理由は、子どもが社会の中で生活していくうえで、望ましいことを行い、望ましくない事を行わないことを、学ぶように教えるためです。それゆえ、正しく叱る・ほめることで、子どもは一人前の自律した人間へと成長していくことを促されます。

<相互信頼に根ざした人間関係を!>

大人の叱る・ほめるという言葉かけが、めざす結果を生むためには、まず、その言葉が子どもの心にひびくように伝わなければならない。そのためには、両者の間に真のあたたかい心の触れ合いが生まれ、深められていることが前提条件となります。

このような信頼と尊敬の気持ちがしっかりと根づく人間関係にあれば、子どもは素直に心を開き、安心して心の内を見せ、大人は子どものありのままの感情や考えを、子どもの立場から受け止めることが可能になります。大人の思いやりを実感した子どもは、わかってくれようとする人の気持ちを自分のものとするに言い知れぬ満足を感じます。

<叱る・ほめる「こと」と「わけ」>

大人は、本来子どもの何を(こと)、何のために、どのように叱る・ほめるかについて、正しい認識を持っていることが大切です。しかし、この「何を」の意識があまり強く全面に出ると、子どもがこの「何を」を、どのように受け止めているかを知らうとする構えが弱くなり、言うことを聞かせようと、大人からの期待が一方的にかけられる恐れがあります。

叱る・ほめる「わけ」の本質は、子どもが社会に生きていく人間として必要な能力や特性を学び、成長していくことを促すところにあります。この本質をしっかり意識し、子どもを叱る・ほめるなら、その言葉は子どもの心を揺さぶり、子どもに自省心や有能感を生むものとして内在化されてきます。ただし、その成果を焦ってはいけません。

<子どもの立場を思いやって叱る>

子どもは、生活の規範や大人の価値観から外れた行いをしても、それに気づかないことがしばしばあります。その行いは、放置せず、叱らなければならない。その際、「叱る」が子どもの年齢や性格にふさわしく与えられ、理解され、受け入れられれば、思いのままにならない状況に耐える力である耐性が培

われ、要求を抑制する心が育ち、子どもの人格形成に重要な影響を与えます。

叱ることは、その仕方よりも、その心の方が大切です。とはいえ、より正しいと思われる仕方があります。簡潔に叱り、抑制すべき「こと」と「わけ」について、静かに納得がいくよう説明し、明快にいましめることが大切です。叱り方によっては、子どもの心をひどく傷つけることがあります。他者の前で叱ったり、子どもの人格全体を非難するような過ちを犯さないよう留意することです。叱る際は、子どもの立場をあたたく思いやり、いましめることが大切です。

<子どもの気持ちに共感してほめる>

叱る場合と同様に、ほめる場合も、子どもを思う心が重要です。大人は一般には叱ることの方が多くなりがちですが、子どもの望ましい行いは、適時に、的確にほめるよう心がけたいものです。

ところで、ほめる対象は、子どもの上げた成果となりやすく、その過程の評価は背後に押しやられる傾向があります。子どもの真の成長は、努力を続けることによるところが大きいわけですね。ひたむきな努力を心からあたたかく思いやり、ほめることが大切です。

また、子どもの個性を重視し、その子らしさを把えてほめることが大切です。それによって、子どもは、自己の独自性を発揮し、生活を積極的に創り出すことの挑みます。この姿こそ、「ほめる」が本来めざしているものです。

<叱る・ほめるの内発化・自律化>

叱る・ほめるは、外部の他者である大人から発せられます。そのままの状態では、子どもにとって外発的であり、他律的なものです。子どもが成長するということは、物事を自発的に自己決定し、主体的に自己指導に努め、積極的に自己責任を取る力を獲得するということです。そこに至る過程で、叱る・ほめるは、子どもの成長に伴う内発化・自律化を促すという意味で重要な課題を抱えていると言えます。

[参考文献]

小林芳郎「心にひびく叱り方・ほめ方ー叱る・ほめるの心理学」『児童心理』(1998年8月号臨時増刊所収)。

ジュニアボランティア大活躍

夏の特別企画

「こどもの国のおばけ屋敷 おいで〜、おいで〜」から



夏休み、8月6日から21日の2週間、多目的ホールに出現した不気味な屋敷……。屋敷の中から響き渡る悲鳴。不気味な効果音。怖いけど入りたい。入りたいのに入れない子ども達。その横を泣きながら出てくる子どもが！多目的ホールは大騒ぎ。夏の特別企画「こどもの国のおばけ屋敷〜おいで〜、おいで〜」の一場面です。

さてこのイベントの大きな力になったのは、今回おばけ屋敷開催に伴い公募で集まった、小学3年生から高校3年生のジュニアボランティアです。登録人数38人。それぞれ参加できる日をあらかじめ設定し、おばけ屋敷の製作やおばけ役など自分の得意分野で活躍。どうしたら怖く演出できるのかアイデアを出し合い自分なりに工夫して、みごとに来館者を沸かせてくれました。

子どもと一緒に「おばけ屋敷」へ入った保護者からは「おばけが子どもなのでびっくり、かわいい！」と言う声も。子ども達、がんばってね。と逆におばけが応援されていました。また、泣きながら出てくる子ども達も、すぐに元気いっぱい別のコーナーへ駆けだしていきました。おどろかす方もおどろかされる方もよいストレス解消になったかな？

今回は、一緒に「おばけ屋敷」を運営した当館の(大人)ボランティアやスタッフ達にも、いい刺激になりました。みなご苦労様。でも、期間中怖い夢をみなかったかな？

公園レター

秋です。公園では子どもと赤トンボが元気に飛び回っています。

さて今回は、子どもも大人も楽しめるふれあい工房のプログラムを紹介します。木工と陶芸の2つの教室で芸術の秋を堪能してください。

●ちびっこ木工教室…コースター、木ハガキ(実際に郵送できます)、キーホルダー、木トンボが作れます。
対象: 幼児から(小3までは保護者同伴)大人まで
定員: 各回25名
参加費: 各200円
ミニバズル(400円)もあります。



●絵付け教室…素焼きのお皿に、専用の絵の具を使って好きな絵を描きます。
対象: 5才以上(小2までは保護者同伴)大人まで
定員: 各回10名

参加費: 500円、1,000円の2種類から選択
以上、2つの教室は、年間を通じふれあい工房開催日には、いつでも受付けています。講習時間はどちらも、
午前の部 10:30~12:00(受付時間9:30~10:30)、
午後の部 13:30~15:00(受付時間13:00~13:30)です。

お申し込み、お問い合わせ
ぐんまこどもの国 ふれあい工房
TEL 0276-22-1767
金山総合公園ぐんまこどもの国ホームページ
URL <http://www.gunma-park.or.jp>

夏休み囲碁教室に、女流棋士・木部夏生さんが来館!!



木部夏生さん

7月23日から毎週土曜日に6回開催した「夏休み囲碁教室」ですが、その2回目の7月30日に、今年度の群馬県小学生部門と女流部門で優勝した木部夏生さんが遊びに来てくれました。木部さんは、太田市沢野小の4年に在学しています。ここで、木部さんへのQ&A～

Q: いつから囲碁を始めましたか？

A: 小学校1年生からです。

Q: きっかけは何ですか？

A: 「ヒカルの碁」というマンガを読んでやってみたいと思いました。

Q: 今はどんな練習をしていますか？

A: 週末は東京の新宿まで行き、プロの先生について練習しています。夏休みなどは週に4日程通ったりしています。

Q: お父さんやお母さんも囲碁ができるんですか？

A: できないので、家では囲碁の本を見て勉強しています。

Q: 将来の夢は？

A: プロの女流棋士になることです。

という、とても熱心な木部さんです。

当日は、囲碁教室の先生との対戦を大きなスタンド式マグネットの囲碁板で見せてくれました。きゃしゃでかわいい女の子ですが、碁盤の前に立つと、聡明でキラキラと輝く瞳でどんどんと相手に攻めていきます。ベテランの先生にも臆することなく、堂々と渡り合い、さすがはプロを目指しているだけはあるなあ〜と感心しました。

8月2日に行われた全国囲碁大会・小学生部門で堂々のベスト16に入ったと後日お聞きしました。ちなみに女の子で勝ち残ったのは、木部さんだけだったとのこと。

群馬県では初めてのプロの女流棋士になるであろう木部夏生さん。大注目まちがいなですよ。



先生と対戦



みんな真剣

全国児童館おりがみ作品展に出品します

全国児童館おりがみ作品展は、全国の児童館が日頃の活動を発表する場として毎年実施されています。作品は10月に東京・こどもの城で展示し、その後全国各地へ巡回展示され、巡回展終了後は世界最大のおりがみミュージアム、石川県の日本折紙博物館に展示される予定です。

昨年、ぐんまこどもの国児童館も参加させていただき、当館で巡回展も行いました。

さて、今年のテーマは「あそび」です。来館した子ども達が「おりがみワークショップ」で作った作品や、当館の職員の作品を集結させて仕上げました。どんな作品になったかな？また、全国の児童館の作品も楽しみですね。

今年の作品は、来年4月中旬に当館で巡回展を行う予定です。お楽しみに。



編集後記

爽やかな秋です。先日山で、まだ青いアケビの実を見つけました。このころと通信が出る頃は、どのくらい熟れているかなあ。これは熊と採りっこになるかも。ファイト！(笑)